

企業活動で省エネルギー技術の導入・開発は、重要な経営課題の一つだ。地球温暖化対策だけでなく、エネルギーコスト削減により企業の競争力向上にもつながる。省エネ技術の力ギの一つが熱の上手な利用である「エレクトロヒート技術」だ。モノづくり現場での活用や装置・機器を手がける企業の事例を紹介する。(全14回)

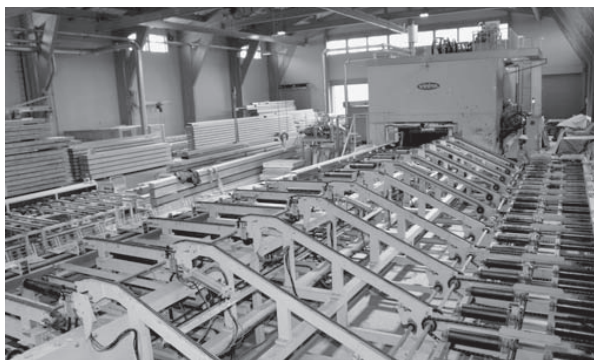
◇ ◇

中東(石川県能美市)は、さまざまな建築物で用いられる集成材の製造販売を主に手がける。JR金沢駅前のシンボル「鼓門」など、著名な木造建造物にも同社製の集成材が使用されている。現在、集成材の事業環境は大きく変化している。国が国産木材の利用促進の補助金などの政策を打ち出し、新市場創出が期待できるからだ。同時に欧州で発展した直交集成材(CLT)の日本国内



高周波集成材・CLT接着機

乾燥時間を短縮 生産拡大



への普及ももうたわれた。柱に適した集成材と、壁に使用できるCLTで提案の幅が広がる。CLTは製造しているが、プレスする設備が必要だった。導入の検討段階に入った時に「補助金が終了した後も採算が取れるのか」という懸念がよぎる。専用機ではCLTの採算性が悪化した時に稼働率が維持できない。一方、木材をプレスする工程は集成材と同じだ。た

中東が本社工場に導入した高周波集成材・CLT接着機

中東(石川県能美市)は、さまざまな建築物で用いられる集成材の製造販売を主に手がける。JR金沢駅前のシンボル「鼓門」など、著名な木造建造物にも同社製の集成材が使用されている。現在、集成材の事業環境は大きく変化している。国が国産木材の利用促進の補助金などの政策を打ち出し、新市場創出が期待できるからだ。同時に欧州で発展した直交集成材(CLT)の日本国内

を製造できる「高周波集成材・CLT接着機」を導入した。新たな設備で生産量は従来の2倍に増えた。導入前は接着剤が自然乾燥するまで、材料が機械に仕掛かったままになり、次の生産に移行できなかった。接着剤が乾きにくい冬は、シートで覆ってボイラ吹き熱風を送り込んだりもしていた。高周波であれば30分で乾燥する。含水量が多いと木材が焦げることが、前工程の検査を厳

格にして結果的に品質は安定した。多品種の集成材とCLTを柔軟に生産できる「この設備でなければ現在の受注量はこなせない」。決断は正しかった。人手不足の折、最新の設備で段取りも削減できた。さらに生産量を伸ばすべく、長期的な目標として「自動化を組み合わせた連続運転への挑戦」(同)も見据えている。(金沢支局長・本荘 昌宏)

【事業所概要】▽所在地 石川県能美市岩内町ヤ1の9、0761・588・0100
 ▼主要生産品目 集成材・CLT
 ▼年間エネルギー使用量 1663キロワット(原油換算、16年度)
 ▼年間CO2排出量 3365ト(16年度)